

短歌

◆匂いたつ 雨後の緑生く若葉
夕やけのなか 犬と散歩す

◆畑仕事に 履きし雨靴
紺色あざやか 品よくみえる

◆病床に心小さく沈む時
友の便りに心癒される

◆歩かんとベツにつかまり立ちたれど
足より先に涙の出づる

大上セツミ

【自由投稿】

◆秋空にグランドゴルフの玉は飛ぶ
青き芝生に音高々と

匿名



ハクサイとリンゴの変わり漬け

さくさくとやわらかいハクサイをリンゴとともにおいしく漬けてたくさんいただきます。

◆材料 6人分 ハクサイ500グラム リンゴ1/2個
塩水、水カップ2杯 塩小さじ2杯

<作り方>

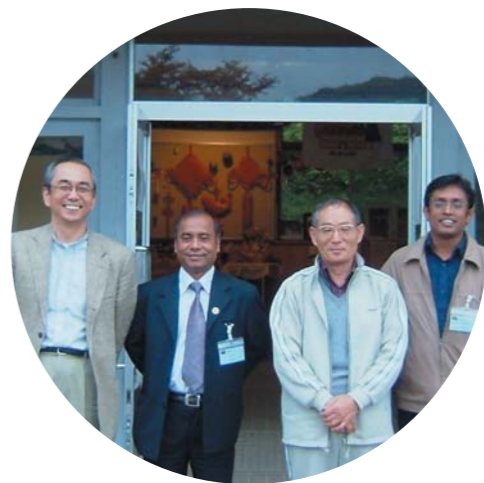
- 1.リンゴをきれいに洗って心を取り皮つきのままで縦に3つぐらいに切り、小口からうすく切ります。うすい塩水 水カップ1杯 塩小さじ1/2杯を作りこの中をさっとくぐらせて水けをきります。
- 2.ハクサイは縦二つに切り根本の部分をそぎ葉の部分は細く千切りにして塩水(分量のもの)につけしなやかにさせて、リンゴとまぜ合わせ水分を切ります。しょうゆをかけていただきます。

さざんかの会 No.13 我が家の一品!!

一品料理の受付は
FAX 0847-86-0045
ながの村まで

戦時下の国民学校等卒業者 同窓会開催

10月5日ながの村の大広間で、昭和18・19・20年国民学校卒業。昭和22年新制中学校卒業の合同同窓会が行われた。ちようど喜寿のお祝いを兼ね坂本利春氏の幹事で15名の戦時中の同士が集



し視察は東京から始まって、京都、広島へと移動し11月1日筑波経由で成田から帰国されました。約一ヶ月の超ロングラン視察で、多くの視察箇所の中にながの村が選ばれたことは大変光栄なことでした。住民のみなさんにお礼方々ご報告致します。

まり、お互いの長寿を祝いました。参加者の中で現在ながの村に住んでおられる方は、横山士氏、城後明氏でした。中国人研修生が滞在しており、一緒にカメラに収まり散会しました。



お便り

情報報も、いつも、ありがとうございます。私の、母も、長野の出身なので、いつも、ありがとうございます。ながの村ニュースも、いつも、ありがとうございます。いつも、ありがとうございます。

上下町Nさんより

お便りありがとうございました。

俳句

蝉と味肉ソテ
溪谷の鮎と食む
有楽
7/6/4/008/ 兵庫県明石市在住 櫻井貴代子様

7月の下帝釈峽溪谷コンサートへ参加され、再び11月3日に、下帝釈峽の紅葉狩りにご夫妻で訪れた方です。コンサートが大変よかったので、一句したためてみました。

豆知識

国民の休日

勤労感謝の日

勤労感謝の日は、日本の国民の祝日の一つ。日付は十一月二十三日。国民の祝日に関する法律(祝日法)では「勤労をたつとび、生産を祝い、国民互いに感謝しあう」ことを趣旨としている。一九四八年(昭和二十三年)公布・施行の祝日法で制定された。



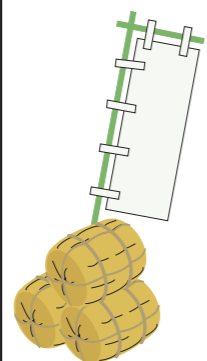
戦前の新嘗祭の日付をそのまま「勤労感謝の日」に改めたもので、新嘗祭は一八七二年(明治四年)までは旧暦十一月の二回目の卯の日に行われていました。一八三七年に太陽暦(グレゴリオ暦)が導入されたが、そのままでは新嘗祭が翌年一月になつて都合が

悪いということ、新暦十一月の二回目の卯の日に行うこととした。それが一八七三年では十一月二十三日だった。しかし、翌一八七四年からは十一月二十三日に固定して行われるようになった。十一月二十三日という日付自体に深い意味はなく、たまたま日本が太陽暦を導入した年(一八七三年)の十一月の二回目の卯の日が十一月二十三日だっただけのことです。

お見舞い返し

田辺里恵様

ありがとうございます。



11月号の「人物紹介」 「ちよつと立ち話」はお休みさせていただきます。



ながの村

【2008年11月17日発行】

〒729-1360
広島県神石郡石高原町永野2549の1
TEL(0847)8610215
FAX(0847)8610045

11

2008
NOVEMBER/霜月

H.P/ www.naganomura.com
e-mail naganomura@image.ocn.ne.jp

帝釈小学校わかくさ児童会愛鳥カレンダー

11月

ふくろう(フクロウ科)



頭が大きく、太った感じがします。平たい顔をしています。「ゴロゴロポーポー」などと低くこもった声で鳴きます。はばが広く、先の丸いつばさを軽くはばたいて飛びます。羽音はしないそうです。

ジョウビタキ(ヒタキ科)



頭から首の後ろが銀灰色です。のど、ほお、胸にかけては黒色です。つばさは、黒っぽく白いようがあります。こしや尾は、オレンジ色をしています。「ヒッヒッ」とよく通る声で鳴きます。「クルルッ」「カッカッ」と鳴くこともあります。

6年 表 志保



村まつり せまる!!

12月7日(日)

10時~15時

今年も久々に福山市神辺町から民謡原田直希会28名が出演してくださいます。唄、傘踊り、銭太鼓、鍋蓋踊り、そしてソーラン節は会場のみさんと一緒にします。飛び入りコーナーもあり、民謡、カラオケ、踊り、何でも申し出てください。



新設の お風呂・トイレ が完成

8月下旬より、ふるさとふれあい事業助成金で工事に入っていました。お風呂1セット、トイレ3器が完成し、このほど神石高原町に工事終了の実績報告をしました。11月1日から使用しています。最終的には見積もり通りの約380万円で完成し、その内20%はながの村で負担します。読者のみなさんにも新しい施設を利用してください。関係者のみなさんありがとうございました。



おめでとう さざんかの会の みなさん

10月17日油木山村開発センターで神石高原町民生委員児童委員協議会の研修会があり、その席で「様々なふれあい活動を実践された」としてさざんかの会が表彰されました。代表で瀬尾ヤエ子さんが賞状を受け取りました。



比治山大学レポート No.4

■訪問

実際にながの村を訪れた。率直な意見としては建物が少ない、なにより道が狭い。

また、山中に村があるためか暗いイメージをどうしても受けてしまう。レジャー施設もないため、若者が住むには辛い環境だと思った。しかし自然がとても豊かで、空気がとてもおいしかった。最後に訪れた自然の展望台は圧巻だった。施設でいうと「ふれあいセンターながの村」はとても綺麗で施設も充実していた。中国人研修生の授業風景を直に見ることかできたのは、ながの村を理解する上でとても参考になった。

■見解と感想

永野地区を調べてみて、永野地区のみならず、全国の町村でもこのような問題は必ずぶつかるものだと思います。自分も町の出身なのでこのような問題が提起されたときは悲しくなってしまう。

しかしながらこのような重要な問題を解決できるのはやはり地域の住民であり、その協力も必要となってくる。内の声に耳を傾け、外からの新しい知識を取り入れることによつて、地域は輝き、存続していくものだと考えさせられた。

竹林の伐採作業進む

ふれあいセンターながの村から東へ花面公園を望む二帯に竹が繁茂し、景観がそこなわれていました。40年ほど前から広がり、その中には大きなケヤキ、杉2本が、祠を守っていました。地目は山林で個人所有の約30aを平成20年6月に、ながの村自治振興会で竹林繁茂防止事業の補助金の申請をしていたところ、9月になって補助金の交付決定通知がきました。早速自治振興会で作業参加のお願いをしたところ、10月26日11月1日、2日の3日間で約50%超の竹林伐採ができました。



今後毎週土、日をかけて伐採のお願いをし、12月10日の期限までに仕上げたいと思います。交付金がおりのので作業参加者には少しばかりの作業手当を支給する予定です。が、何しろ重労働ですから作業が終わる夕方には大変お疲れの様子です。ながの村の住民の力で、里山づくりを進める好事例です。みなさんのご協力感謝いたしますと共に今後もよろしくお願ひいたします。

バンングラデシユより 農村開発公社2名視察

10月23日、14時から16時頃までJICA(国際研修協力機構)のお世話でラーマン推進室課長、ハサヌール副担当官が来村されました。通訳を含む3名の日本人同行者があり、ラーマンさんからは、「村長の後継者を育てながらがんばって」と激励を受けました。一行は日本に10月5日来日

